貝原町人表

事

ロ仁9
1715
2

門口一郎
巻 1715

町人囊巻三

或人の曰町人は詞わるく様子わるく所もおもしろきものなりいつしか都の詞よりいきつきて国郷詰にて国もの也都の詞をまねること多しいつの詞なりとて知る事なしと神代の遺風は結句外鄙より始りて多くは田舎やいなかの詞に具いつへいしの人皆そなはりたる成ゆへ撰びて云ひ出すべし

をく事たのもしく
あるい　母紙いつ阿妣ゐるべし妣い母紙いつ
ひの絵音いつ事ゐ行ゐ坂よあひいていつ
てく　文をいつ字治拾遺物語よりてくふをち
ゝそゝ五音相通ずてくい則らくなり
てらやう　をくゐ却ゝこ紙いつう家のあるべし
ハ年をけくゐりものをいつ親をいつう夢長
なるべし
をおう　足をいつ破茅ゐるべきう或書乃中
ゐ茅乃姫く土中よりをじゐりものを破

茅といつとゐてゐうの書付ゐ紙ゐるをれう
かを孫てうんゐべし
いの　猿児をいつをれて五十日の内なるをの
をいつし延生ゐう五十日ゐ紙五十日の祝
ゝて祝ゐるゐあう源氏物語をゐれをんゐう
げゐう　外科をいつう外痘と書う字林
捨養ゐ子ゐう
か内　うゐ員をいつ却れさーといゐる
をうゐまゐゐいつ紙ゐ却ゐうゐ却ゐまゐと
いゐう

あらよし　かすれたいつかりよりやつるるや
あらふるまなくくおすりよりあるもがし　浪
まるあらくいふるいよりやてくるやだり
たこ　祝といつるを見たこあれたこをいつを
これ子個なるべし物の名を祝わるるをいつり
むざう　不役なる紙いつ無慾なるべし字治拾
遺物語ふも見てくるり
ちろぐく　物の用命より付来とるを倉物ちろ
ぐと字治拾遺物語よりくるり
右のかち紙多くるくし畫く記とふいつ法なし

又京いつかりふく著くく人のいつ詞よおのづくり誤
本れる事多くし二つたよ記とるがぬし
瓢簞　瓢いひさごなり簞い竹て造る器
物なるよく論語の註もよてくるたれい瓢
と簞とは二物なる紙ひくよ記さご紙ひよ
うくくくいつるいいるぬ
蒲團　蒲て造るる團座なるべし今の敷
うくといふものよいあくく人今のぬくんいつるぬ
といふものなり被食の字紙用ゆべし
鍛冶　鍛冶の誤字なるべし鍛の字と鍛乃字に

誤冶の字紙漁の字て誤るものもといつる
但うらしつゝい神代より和語にて日本紀よ
鍛部はかなとかゝらと訓じる紙後世結句誤
とかさる抱ちとといつるもるゝば鍛冶乃二字
も誤りはあるゝ鍛冶乃二字い鍛いかゝらて
冶ハ鑄物師の事なり

甲冑　日本てハ甲とゝぶゝくいひ冑をよろ
いゝいひつゝさる甲いよろい冑いゝぶゝる紙
ゝうちゝぐくるものなり

者　ぶゝこのゝるゝ日本ていわのもゝといつる
誤なるゝゝぬのもゝていゝ豬といよりの也十二支
乃変し物さけるもゝ猪の字も誤なるゝ孫に
物さの惣名なりとゝ

鴨　字書と考つるふあひるけるも家鶩ゝいゝ
とゝるゝ又家鶩ハ鴨事なゝ野鶩といつる和
い紙花かゝゝるゝくゝれい日本のあひるといつい
家鶩なる事数なゝかゝふい鬼の字を用へし

坊主　毫髮のもけをもてていつい誤れゝ僧の一
坊をもけるもの紙いつゝ非人かいをう乃報
まで剃髮さゝれい坊主といつるいわゝ

沸坊　人を焼るの地いろ〳〵あつかい
い僧家より出る執行さう其導師なぞ紙貴
て沸坊といつるかるもの也近代俗人の賃銀を
とりて死人を焼をも沸坊といつるいひた
くさんれい也沸坊とゝい貴くちんぢうとい
へばいやゝくゆえ也又あつゝ
右のかはりぐ〳〵畫〳〵ぢうそく〳〵て紀
〳〵詞い人事の風を達さるゝあるべしかとゝ人
誤なりた右ようひてくさるれい其俗てせよ
もつぐひて害なゝ此すりて改る事わるべしそれ
も可なん

或人のいつかい富貴とゝ人ぐ〳〵いあり
ど富い財寶あまりゆ貴い官位ゑるとゝ
町人百姓金銀財宝貯〳〵富貴の人とゝ人い
誤なり〳〵町人百姓ゑ官ゑ位の者何程財宝の貯
かとゝて富ゑとゝいひ〳〵貴れ字の仏神〳〵和
べ〳〵ゑ様ゑ敷なぞの貴れ字とい各別也我家乃
関白ゑ〳〵ん〳〵事あれいおのゞ家門とゝ何れ人
外さはゝて我い富ゑ人ちりぐ〳〵とゝ人い却〳〵さる也
まれい富ゑ人の身ちりと仏得て過義栄耀乃

風俗とをしたものむ天乃悪し處なり角金銀
を貯ふるこい出人のふるまひとあるとも御恵の御也
と心得るものも町人百姓財宝有のとい富銀
者ふいるもとつべく有徳といつて根本有徳有
人の事也町人百姓の有徳い利徳の徳也有徳人と
いふい道徳よ法ぎ〳〵り唯おもひて不思といつれ
ある人或学者よ問て云地獄極楽ふい有とおもひて信心
やふるとおもひ法ぎ徳いや学者答て云有と思ひ
法ぎ徳いいふといつよ町人以下い新とれいあ拠
なる仏おこりやすし聖人世よ出ふとい是万民

を盡く教へて道とおもひ結ひあるものと民をは
依おもひ〳〵和おもひ〳〵況や事代の人い邪欲驕慢
多〳〵地獄極楽死後慥よあるとおもをふるも也
いふ〳〵聖徳太子我国よ仏法と弘め結ひしも此
未来の苦とおく万民とおそれ戒めるひ天下を
おさめ神道乃方子けとか結ひしやを子孫立
憲法の中にも仏法をもつて王法の外護とし
ひをを結ひし也王法い則神道なりいふ法孔
て後学ふなれふの俗ふる魂魄の行末と沙
法しふるものをれば愚蒙乃町人百姓の思ふも

ことわりなり其ゆへは常に万民うしろめたくんい天下太平ハ基なるん此故ゆへ地獄極楽死後ゆへ有とかつ人ゆへ法分あるとかつをてをもてた事なりまつ所ハ今代の出家いまれ所ハうづ喜き道理と説きうをはつくるなる所ハ町人百姓ゆへ教へて地獄ハ後ハ所ハなぐいひきうするゆへ出家今代い愚子ハ女人童子ハ地獄の沙法をハ行ゆくとひ百千人の中にハ信實ハあるとかつ人ハ稀也聖德太子ハ王法乃勝とかつ結ひ出云ハるゆへきやいなや結ゆる事代ハ無てい王法乃害とかつ事多きゆへ太平記の評判ハ中にハ記きう委くい彼書と考へ町人百姓とハ道理をハ学ひさる人ハ地獄ハ有とハ不義を行へき理也ハ極楽ハ有とハ行ハ安楽なる所ハ行へき望ゆとかつ人ハ具人のゆへ地獄天堂乃沙法ハ入るゆへ或侍病死ハ勝ゆ出家のゆへ業報平生修善とかつ結ひ出ハ報なるべ行ゆ一念を結ゆ結へとすゆる侍紀ハ云極楽ハいゆ成不ぞ行の云七寶を地ゆきゆ

飲食衣服ともろ〳〵求めもとめ寒をふく熱をふく常
に安楽なるをなりとし侍のごとく扶い公家上臈女人
帝子の如いとも是不具れ病者をどいとやうなる而
よ仕居してもとゞ我勇士の家ふせれて雨よ沐
ひ風ふ櫛をゝる或ハいを石ゝ花〳〵苦ゝ花ゝ採ゝ
年生此ゝ花ゝ先ゝ生ゝなりく敵と亡び〳〵忠ゝ君ゝ
盡さんとてとゝれゝ死ゝとゝいふ此ゝ心ゝを云ゝ人ゝ
を何ぞさゆうなるをよ安楽して優ゝと見とお
もんやゝ〳〵の極楽世界中と頭をゝてゝいゝ
ゝやゝ或町人出ゝ問て云人死してせれゝ

ゝ事ハ實ゝ出ゝの云ゝ慣ゝ有事ゝ町人の云ゝまれ
死をハ何ゝゝまれゝんや仏の云貴方い仏ハ学ゝ
ゝゝ〳〵ゝ常に慈悲心ゝ正直ゝ人間ゝ生
を結ひゝ今一号冨浪なる人ゝゝ或ゝまれ
ゝひなん町人の云ゝ〳〵ゝ我身
乃ゝ活ゝ家門眷属多く事繁ゝ仏若し
子孫のゝゝ〳〵ゝ悔ゝ人ゝ一号冨
身ゝ〳〵ゝ中ゝ苦ゝ労ゝ事ゝ〳〵ゝ
或ゝ〳〵ゝ迷ゝ一生ゝ君ゝ
ゝ〳〵ゝ仏のゝ利を第一ゝ

人の見ぬ世ぞうらやましきふるさとをそのことゝやんちゝ者ぞ心所人こそ楽しけれ一生苦なる世にもとゝてもあるなよさゆゝしきの嫌のもれいなる事ぬかさんるの口惜き法華中くしいきの引をとゝやんこて迫ぬおゝく来るの成べしといひしこそやゆゝしきの得公の人こよい地獄極楽の教ゆくた悪行をいうとゝうゝにまこゝ小武士も武士こそとれ所人も所人小こそよれ明智の天下三日こいそれんゝいつい鶴よまれて千年こいそれんこそあるまに

或人の曰今代町人百姓の中に特くの藝術者有て各其道をもつて人よ教せこゝ小或い秘密口傳の大事とゝ号して他人を誰も来其事をゝ小得ぬ事也史日読秘密よ四の小ゝ小わり實秘陰秘利秘妙秘ゝ学問の深理神仏に人の貴る所にあり徳ぬうゝれ功を積ゝる所ぬそ他ゝるい實秘ゝり孔子平に利ゝ命ゝ仁ゝぬの小あい一貫ゝ貫ゝに他ゝ事のゝ小ゝ小思也或い始ゝりあゝつよい何いあゝりに所さくゝて商人他ゝる所ぬ小ゝ嘲く其ゝを抜ゝい大ゝりゝて秘ゝる事あるい法秘ゝり或い世ゝり知人

ならひたる事と獨知て渡世の助としまはるゝ事と人多く
知ある此ハ此のまゝ利德とられさゆへに秘して人に傳へ
さる事あり是ハ利秘なり或ハ藝術者と徒人に
いはれる人の其道ハ何れもむかしきことを人に雜問せ
られてわすれ覚悟もなくて恥かしくいへハ未練なることおほ
ひるゆへハ秘密口傳のことゝ容易辨じかくして
て過ぐしあり是ハ妄秘なり此外樣くの秘密有と
いへども此四種を出ずそれ根本天地の道理聖人の
教誡のうへに何の秘密といふことあらんされハ末代
人にまよひの邪知ありて信實あらさる所に應じて秘密
をまうけるものゝ是をかりて樣く藝術の秘密ありとおもう
知をしるしの無知紙をしるし是にかゝる迹もなき事を
ひし聖言學者藝者の類も守るべき教訓なし況や
町人百姓あらゆる家業職分上に何の秘する口訣ある
べきやわらん農業時を失ひ商賣計量を殺す
是秘密の事なりといふべし
○或人のいふ所ハ十目のみる所十手の指すところにして信く
他人の誉る人ハ必ず善人なり諸人の誹る人ハ必ず悪人
なる理ありけれども末代にいたりてハ見べきやうや世を誉
らるゝにも又誹らるゝにも幸と不幸とありて名の

實よりおいたる事なれども天はこれを
事悪しかりし人はそれを悪しかれと天はなるべきなれ
ありしいにして最なるられ聖人のあれも人をもつる事
邪しんに況や末代よ物のそなや今諸人の器量人皆
をいうある善人いやと善く為れいさて善
もれし又諸人の議つと悪し人あるいるある悪人や
さ善く為ら何いけるる悪行もれし誉られる人
ふしよりし慶あり議られる人よりも悪あるるい
守屋大臣とさいへいい方人ふ悪く議る上宮太子
とさいへ何い方人ふ悪し誉られ守屋い神道と

濃くそしりる人よて悪人よあり仏法をもいそしよう
ねれてうおいし法世よう近代学者達の評判あり
又梶原といひまい往し大悪人ありと疑し判官敵
としいい三家代者よも善人ありして崇し世よいふ
判官見贔屓なり梶原義経よ非義ありと教朝
小訟へしい道理よあるして忠義ありや義経のる
まひよし非義多ありて事を絶よ天くう是結天の
ふるるおいと人ふるるおと悪ある事あれいも人多る何
いより勝天をいそれ人を制とするあり一旦
人ふるるおいとそ人ふるるおうと天ふるるおうと帰さ

とて人いかのまこうみの小利ある人をかろ豪し我為
小利ある人を悪く論る此故は何事にても諸人ゆ
利徳わるきことをわすれ諸人怪ひとかたけいけうこと
乃誉れわろ平家代奉ふ万民退屈迷惑せ物うり
義経の武功ふ大て平家亡ひて万民怪ひ和ふ人ゆ
義経と誉愛して大賞わ人とも一国ふ不恵に捉
取義経乃非義を訴へ伝て義経罪と得て流
浪の身と成給ひしと万民ハ其ハ子細の儀をハ知ず
かけ言ひ人ゆ判官厳痛いしや捉原ふくやとろ
いひて知とたくゆ人ゆ言ふいひて知給ひけく

給ふ後代まての論とかわり書ふり義経天下万民
乃為ふ平家と乞かやしていあ人ゆ恩徳ありふふ
伝くなりたる万人其功の大なる公誉愛せ
ひ人其ハ恩徳ゆ非義なりと諸人忘れるものなり
好んとれた其悪ふたる惜ふ其善と知るものハ
天下ふとくれき理ゆ也これ人の儀をいくとふ世
間乃毀誉褒貶ゆ伝て人ゆ善悪ハ定ふ理なり
天ゆ人ゆ為ゆとけ人天のとる為ふたるとふ君ゆ
意ふて一旦の誉れ為とハ其實ハ世ゆ著る
小人の誉れ何ぞ久ふ町人ゆ利根才智ゆ

もつて人品とかたちうつくしく禮義をはくろひ上
ずはつぶ紙ゝうるまひて一旦の譽れを得ることゝ見身の
はよ作り是をちひ作ることをそひうんや婦女乃
抑こゝ愛せわんとあふ一生をうち作くろうるとひを
まこと又ゝ物ものやといそれ
武所人いつかもう人よ身代多紙されるまわりて物く
いきゝ紙りいろけるふ武出家いさあているい何業
し業の世はもひて作をいさかつくいろいつきゝ紙
ものひそいつを後過をうて彼人どうれるこのをを
ものりまあり也ゆよ今又ゝ多紙されまひゝもの

あれいさのゝ紙人ゝ多紙ゝ羅をはうり作ゝ作く部紙
ゝ是ゝ是ゝ風吹てもひれゝ多紙ゝ紙ゝを
まいはゝ人ゝうあゝを
業の世よれゝ風をやゝ紙ゝ人今の風ゝ紙をゝ紙ゝ
ゝうあて出書ふゝ後ゝ業をゝ多ゝうん
武人のいつゝい依怙贔負ゝいゝ非ゝ人ゝを恥ゝて是
ゝうるゝゝゝひあゝいゝ大ゝ誤ゝ直ゝ紙
恥ゝて曲ゝ作ゝ非ゝゝゝうゝ恥
ゝ紙伝怙贔負ゝいゝ自贔負ゝ力ゝいて物を負
ゝう伝怙ゝ人ゝうゝのゝゝ紙ゝて伝怙ゝ贔負

又れ人を助くるなり志賀寺の信心とつとめ給へと非よ
聞るの事にいひかくるいふやう三社の託宣
し正直の一旦の信心よりあらたのあり観音経うを
紙乃作伝結とあれい神し仏し信心いあるとうるう
仲神何て理と非よ曲の事と志賀なんや見なるに
邪よ落し非なる紙見てさるなるひい私曲偏頗か
くしてるしといくれし
武学者のいくれい世乃諸陰陽師身のと志賀と
いつかいいつかりそひにくまるん九傳小晋度
西いと夢とうるれ小桑田しいよ居る名医の巫

祈りて夢を石ひとらくりよ巫のつるかい面年れ新麥
と食し給ふまて御命おいやてくしひ拙晋度程
なく癒ひて縛し祈し名醫し此疾い育の上膏乃
下し在ひ人よ治とる事叶ひとくいて帰さうそのち
程なく麥し出来る此よ成るる小晋度麥と合し
こうてれし独い田地奉行より新麥と獻ぐら見
を合よりらく仲の桑田れ巫を呼ひて乃毛しめて
海新麥と合するかくの命いなよいしいひ伝ふ
とて則巫紙殺されるる拙こらくる新麥と食
さんとて先用事の厠よゆれるるいくさるもん

厠のうらに隔つて死をうばうる新妻を縊り
殺すとる事あり梅こそ桑田の巫山石崇といふるか
れとどひのうをうまうまうふ是程の人の上は事をい
遥のいまのうの新うの程のれう物のをと晋侯の新さ
まうんといてのとといまうさうるいふうれまうも拾ひ清
命いとかく危しとづうひて拾うういうう見へいう
さう新妻をいまいうる海しきなくく縊りにて細ましたて
いひ新ひ都て今の世にても此類のうの甚さうなり最
また町人よい法湯師の事ちうつき新しい事多く
て迷いうう事ぬ多し見て辻風よいあくあが秘

密ともうれ人のいひ出ぬ後よりのうれといふれ
或人学者に問て云町人なるの学問をうい何の用ふ云人ある
うや学者答て云身をおさめ家をおさめ家をそのうんみ也といふ
又問身を治め家をおさめるの事学者のこたへて
云学ば町人いつれと所と云ふ所先つまりといふ
此学者かされて答うてゆうあ此人又幾学者おの
のおく問に此学者答ていれい町人の学問いねすも
とうる仏法をこさいたうん方ある也と又問学問を人を
て盗こすう事や有へき学者の云作のうく云学ば
人ありて盗ことうる人い最悪うう去あうう盗こすう

意気地なきものを者といひ是を公儀者と殊勝
をうとる数ふこそ恐れて盗をする人もあはれと云ふ
ものなれども不義とは盗賊とかりても殊勝とうるものを
作法かりに大神宮の号を著い不義を行ふ人多くは
さもあれ世に有ても天理と恐れて盗ことの意不義乃
金銭おそれるものきの人は有ることは年さしつて松
栢の彫ものをつくり本と和い学問とする人の第一作り
ひいき書ちらしいつくしし
武所人は学者語て云日本は武国にして質素を主
とす武道は質素清浄とかたく質素なるは

武道弱く驕奢なるは武道弱き物也此故に神道
は質素を教へしに質素は別正直のうちにあり文奢
は邪曲あり故に日本は宗廟伊勢大神
宮は本つ御殿は草葺御供は瓦器木
曽土器の類と聞て結構奢華なる道具と神道に
用る事は唐土にて大廟とは清廟にて清浄を
本とし茅葺小屋の飯なり料理の供物も
味はひとはく絶なる俵物にて多端に示す人
より是和漢共に質素清浄とよ

ゆくさきの地日本の中古ふりてし美民おくれぬ
なれば其後うつくし過美の風俗とあらためいたる近代
の移りかはりしや聖武天皇の御時行基に命じ給
ひて日本國中の人数を記し國郡の境を正し人民
衣服の高下すべて食物の上下善悪を定めたまひて
其差別を定めたまふ庶民は黒米の飯法のうり椀
に折敷と用ゐしかの換りし人代本奥は答恵と
馳走とすなはち神代質素清淳の神義を失ひ
りのちかたふる今時用ゐる本奥振舞にいたり
本代上品を撰び細工を奇巧を尊とてつくる

本とあらるゆへ近代に至て驕奢いよ〳〵本奥の賜り
蒔繪の椀神代の風俗といふべし白木の折敷紀の
國の雜椀伊万利の美濃の神代の風俗ともいひ
はやすべし

同人のいはく今代京東中古ふ所人は家居作りの始れ
る世代といひあらべし古神宮の御殿よりは背々の和
れ日本の人数いはんや千倍なる人毎ふ家居作事
行法ようするゆへすべて天下の材木費へ彩色況や数多
き寺院其美麗言語を絶と世数よ諸國の一材よ
り起材木近代にいたりて此驕を費へ

又本奥脇より万倍と名のるかき所人みてい大神宮風草
黄ゝ出へきる也神代より人民清宛より行ゝ
今信濃の西ゝ岩の間ゝ岩穴横さ廣ゝ口せく
おくひろく穿る穴度是神代の宛居れ踏ゑん上信
乃頃ゝ客人来る所ゝおくゝ入てい
入給へていまる也古乃宛信濃乃国戸口ゝ這て入ゝ
ゆへなりといふ世ゆへゝ家の戸口ゝ入ゝ
入ゝいまる古ゝ所ゝ婦ゝ家乃ゝ入ゝ
ゝ信濃ゝ所ゝなる事とゝ
ゝひゝゝして奢の宛おさゝ世ゆへゝ

てゝ
所ゝ出ゝ今ゝ
質素艱苦なる神ゝ
ゝいゝ
武人の云東北の鬼門ゝ
いゝ所人ゝ
ゝ所ゝ
西家の東ゝ
いゝ
神明の舎ゝ

乃方にて祭りし悼孔子の佛説又は陰陽家の説を
いまだ不考或書ふいて所い北方の久しと年とをて法
の効験なり東い春秋年ゝうて湯の始ちり東也
乃間い陰氣終りて湯氣生ずれ所ちり多節
季ゝてい節分除夜乃河を主ゝ作り法を鬼と
湯を神ゝ法の鬼去りて湯の神ゝ来り来也
鬼い外ゝい冬乃陰退くなり福い内ゝい春の湯
神ゝ也ゝるゝ鬼ゝいひ神ゝいふも其理二つる
此故ゝ東北を神門の舎ゝいう神門乃位置
乃名なり鬼門ゝいふも鬼神乃位置のゝ方也

鬼神の位置なりて鬼神いつも東北の間り住居
あるゝいわゝ道理ゝもつて名付ゝるもの也陰気去
て湯氣来るいわゝて方ゝれい禍変ゝて福ゝか
乃理也又人の悪心乃陰を変ゝ改めて善心の湯
をもゝるゝ也ゝあゝい鬼門をゝて用ゆべき方
なれ善心乃人位ゝ居事あゝい何のわさいひゝ
らんやゝなり

町人囊巻三終

町人囊巻四

或人ハ云男女共ふ厄と云事ハ町人ばかりさ
ゝ人ハ多し唐土の書中にハ見得ざるより此故ゝや
唐人い厄と云ふ字ハ醫書の中にい男女七歳より
九年ゝくは人の法湯変とるゆくゝ是を大忌の歳
といふて慎ましめとゝ又或人の云男子い少陽乃数
とゝ成て飛を成ゆゝ八歳より氣血充ること十六歳
ゝて精通しかくれぬく八年ばかりにて氣血変し五
八四十歳ゝて血氣滿て四十二歳ゝりゝく血氣お
とろへ行ゆゝ四十歳ゝ初のまゝいとゝまゝ衰く

血氣衰して八〇六十四にて血氣ゆく〳〵精ゆく事
くちり女人い女陽の数にて形成ゆへに七業より
血氣宮うナ四業にて經水いうゑ又七三十五業にて
氣血滿う形ち潮〳〵ゆく〳〵にて七〇四十九業にて
經水絶血氣ゆく〳〵懷胎すし是又醫書の說なり
人ゆうて少〳〵ゆへ不同わるといへとも大概かくゆへ也
角人八四十五後より陽氣衰へ行ゆへ身の
衰ゆきの所ゑ禍福乃事い宮ゑ貴〳〵ゆへ人ゑ
とゝまりうけよ人ゑ高貴ゆへ致して身
代ゆうる人わるむけて惡き事而已あらも

わるゆへ〳〵其所ゑ分ゆうゆ事あれいうゆへ人
なりと云うけて教ひけて教ひ〳〵ゆへ
或学者ゆ云酒い暴ゆ乳ゆ及ゑゆいと惡ゆう
人多ゆ乳といゆい醉狂のゆゑ也大なる誤也乳ゆ
及いとといゆい公ゆうゆ形おこうゆゑと乳ゆ乃ゑ
いうかけてゑの事ゆ乳ゆ及ゑゆいゆ也
世俗の人喧嘩ゆ猶放逸のゆゑ乳ゆ
乃ゑ分ゆうゆ臭い乳ゆ乃ゑ不の腐とゆゑ醉狂
といゆの也乳ゆの宮ひ〳〵乳い醉狂乃儀ゆいゆゑを
始めい人酒をのゑ中ゆい酒ゆ酒をのゑ絶ゆうゆ

酒人と飲とや酒が酒飲い礼也酒う人と飲い是
を辞退す易の辞より酒と飲て貢紙濡と亦節
と不知いう貢紙濡とい酒う酒のし也節と云
ら況くい世のまろ程くけ加減をちろ辞れい
又此うなら武士上に主人方彩よをれて礼酒とろ
事をれ町人い上よ主人方に敬酒の礼多という
あうなれいうないうの者ととい人今に質朴なと
いう程のまろ殷に紂王始めて象牙の箸を造る
箕子という賢人是をんて紂王驕りに出来る象
牙に箸に人情是より又玉乃杯を造るへしといひよ

業のまくに又玉の杯を造り是より色て治く美業なる
驕りとおそろしき也唐土の天子をれい常に象牙の箸貢紙
用ひという古驕りという（き行のうたにわ絲共天子とい
も古い象牙に箸ふて用ふ事ふて用ふ事ふて折又いまの箸を
用ひとろ近代唐紙より象牙の箸いいうと及い
と瑪瑙琥珀して造る盃色に彫物をく打浸と
又今い書も此に人の唐も日本も事代の
過美ハ同しとろ延喜式ま宮安の数も官位
おきい角の指櫛と用る事ふけ官位わる女房角
の指櫛とさしとろ紙屑をい昔い笄の外ハ

櫛かうがい造りて指さうする事也今代い扨帽とい鼈甲
とそ等いつよ及つと櫛ハ造りて下賤の女と常ハ
頭よりていてふる色角の櫛をい多いてたと人
ハ扨帽も狂いまと賜しとして甚上て金銀をちりばめ
て是をさすてくれたりあいてちさ海といそれし
或人ハ云ようハの事ハ隆りて自由なりいよりあるの也近
代い物毎巧まハ自由なるわ多く出来らといへた人
間いもりて貴保よ及ふる色者の人い至欲貴保
ハて世智辯よ多くなる色信長公時代ていて
挾箱といふものハ挾竹といて大なる竹をもそ

衣服ハ紙もうの袴よはさみてハけさせうもやむ
うけ人いハ小銭をうとても挾箱の才覚ハ支うるを
ハや是を敬貨朴ハれい也者乃火ちら袋今ハ名義
巾著と変て右の火打袋い大名といへた布又いハ
しなとそ多ハよいひるとハ紙付ちうといふ者代
乃巾著い七寶をかさりて世数事ハ色紗とい
要人ハ云世上よ講といふの事海くあり者ちう事也
者ちうう講の事ハ是ハ事ハて安うに講を好む人い
家門寺飯ハ所のちうく貪を神のもとあ海へ者乃
講といふい一郷一村毎月よ日ハ定て寄合てお

親こ学問有人なる公招きて三社の詭宣又い公儀より
その門壁書等と読きて謹て聴聞し或い出家と請
して種々仏一句をも講説きら或い其宗門の教ふ示
きまと講きしそ是を聴聞し又い面々相人多しの
信心の志公ろうて事仏の誠をしなふるあくん
事さ祈ら人是と講こいいて其古語の一句をも講
説とろゆへなり道代の講い頭と者世ろとうばはさ
陸くして誠とこんるれ多とけあるまいうくて結句
口論放逸の媒となるへきるの多ていとい程し
或人のこ人れ公い却しきものなり唯今あ人対して別

うんろ人ありといて其人ふ公さこんなけさ公さこんな
い感きろうとい其堪忍ろく一命ともけまるの事、
しこいろ血気の勇者ゆそも相撲こ名ゆるる時は
諸人の前そはとうこんに見こそろ公さ拙ても
却きあろ折多ひてこ人ろとけて入いるあこんを
ろそこ一法の怪こ公さ業門きして元者をは
盗人とろ付て人こ思ろて折柳とこ名ゆそい
千金ゆ重こ公さこんしてもいろあくむ人臣相撲も空
噪きこのあけらこ事い同盗も借用も人ふ物を
こ却く事い却れしこといて矣ね

或人のいつかい正五九月をよろはよ用るゝと婦人事
を得たる博識の学者ゆゑ有れともいまゝ出ぬ所なり
けるといつる但佛書の中に四月九月を斎素月とゆん
いひて此三ケ月ハ死刑殺生を禁ずる故なり委くい
事類全書ゆゑ尋くべし何まて唐土ての事なるゝ
ゆゑ日本にてい四月九月を忌るゝ所ハ悪事ハ
ゆゑ仏道の月なれハ善事ハ四月九月ゆゑ
ゆゑ仏てこそよるべ今れ何の忌嫌ふ事ゆん
或学者の云二季ハ彼岸ハ四氏ハて善根を修し仏
事ゆゑ善悪とむ有りゆゑ但二月の中節と春分

といひ八月の中節と秋分といひて晝夜の長短大概
ひとしき所なる也此時日輪天の中道とめぐり給ふて
天地の氣温和なるゆゑ人ハ仁慈と云ひてよる
へき理也但彼岸の中日ハ毎年春分秋分の日より後五
日ゆゑ用ゆる事也日輪天の中道をめぐり給ふ時
五月と冬ハ北の方へ寄る也但天竺の運氣と定
まりのゆゑいつる人も有れ天竺の運氣と日本にて
用ゆる事なれ共天竺の運氣と日本にて春分秋分の
所ハ天氣温和の節なれ共東角ハ春分秋分の
一日乃用ゆ楽んもゆゑ寺院の静なる小徘徊して

或人の云七月盆を一偏に佛道の儀といひて七月十五日を中元の日といひて儒道にて位牌を祭る事あり いつまで祭りは三日又は七日潔斎をなるべし中元の祭りを致さん人は十三日より潔斎の儀也燈籠も強ちに天竺佛法のみにあらず唐土にあると見てはり又日本にても聖霊祭の祥と一向に佛法のみを用ゐるのみもあらず只今茅青萱の造土器麻苧の着物を唐天竺の祭りにいわゆる神道の玉祭の祥なりといふは鞘も佛法儒法よりもあらず神道乃風俗なり佛法日本に渡りさるはまつり七月みたま

まつりといふは唐もわが神道の祭りいつれも吉禮を用る事なれいはは鞘と用ひて先祖の霊をとぶらひ給うまを佛法渡りて宇蘭盆の祝儀ゆへ也方と云合なるべ方なんぞ盆の禮といふべきや細川幽斎老古国よりも方なんぞ盆の禮といふべきや細川幽斎老古国より南岳あり丹後国丹波の師なる家七月十四日盆の禮は吉田へ参りと耳底記よりて又曜も世俗の事なるべ神道に近ってて儒佛の法よりわいはは盆の祭りなるも儒道のわく面に春秋の祭りとする事い所人百姓い叶はとせずして世よひろまりて一年みた

一度ゆくりなく人をこころあて墓に拝し位牌とあふぐ
あるいは仏の法を儒の祭祀にまぎらかし民をいたづ
らにして紀をしへ次儒者の聖霊祭に多くの人い儒法
の作法礼を人にしてくるに仏にまつりをもあるべき是
を用る事なく人いつるる侍人やといくれし
同人のいつるい日待月待とあるは所人は医畢竟に紙
燭をまんとの事也家門と清め合事と改め衣服と改
め心と改めて神明をまつるまるものも庶人なるの身と
して神明と家門にてあるべい畏き恐なる敬よ
日月ふたりてなりて拝ことまる也神明い我国の至尊

なれい所人百姓等共にあるべ非礼なる道理成
ゆ神明とあるべいて月待日待といるの也日月い
つまきあ沢ゆ月待といるの也日月結月待とい
て神明といくるも也日月い天の神明にて神明い地の
日月なれいつまて日月道理なれ日月といて神明と
いつとい今日人心のうへ神明とあるべ別ものを天をいるべ
らていあるべ作るべ人道を神と天に拝ひるべ
は庶人も憚とあるべ
祭るい貴人なと紙振舞とるべ拝ひい別也
云なり公方様と申侍るべ人い日本にて其数定り

宵て常の人いけさる事を仏用に得よ出る人い多き
ゆゑ天とい所い日月星辰いよ及ひと地と甚中に
ありて天地神明と畫くれ奈結い天子也甚中小日月をい
庶人も和国の風俗よ志ひて神明の御本体とおもひて
拜ましい憚るゆえ仏像をもて本尊の徳として悪
鬼降伏ゆゑ仏教ひ清らんとの事なれい
誠とわきまへ神明日月をい拜ひしとも又日論語ゆ
蹠食菓義といへ必ずとおもいるい強ちに祭祀のゆ
ゆわれも時の神ゆ祭るゆ奈ゆ祭るといひて若
しゆゑ證拠也志ゆゑい日待日侍よ神供ゆて備ゆ

ゆゑ奈ゆゑひて悔ゆゆ祭禮の儀とい各別ゆ
ましいとゆゑいるい月待日待よ夫酒小肴と味線よ
て遊ひて夜を明ゆ人ゆゆ御月様御日様とゆのまう
志敬ゆゆ志ゆゆゆゆ大多ひきゆ徒結ゆ
武人乃物語よ謡平家舞いよ及ひ浄瑠璃小肴の新
し者のい人ゆ教誡ゆ也ゆき事多ゆ何の益ゆ人乃
善悪ゆ訓て勸善懲悪の便ゆ人ゆ仏ゆ和ゆ
乃也浄瑠璃い信長ゆ何代ゆ始ゆ義経の世ゆ人
浄瑠璃御前の事とはて音曲とおもゆ其後芸ゆの
比ゆゆて西ゆ芸乃傀儡師とゆゆひて人形と因ゆ也

さり其比の浄瑠璃ハみな義経記平家物語曽我物
語の内を抜出してやハらき事多からさりし近年の浄瑠璃と
いふものハけしからぬ恋を第一とする故人の邪欲の媒
となりてよろしからず是より又甚きものあり奇舞妓也
その始ハ女楽より出雲の大社の巫女国と云女神楽
を業として舞出し京都に来りて奇舞妓の曲をなせし
より漸く世に繁昌して人の心を蕩し誑かして人をそ
こなふ事甚し是に依て当代女藝を御禁制ありし其
後又美男の少年をもて藝となさしむ是も又諸人を
誑すこと女楽に同し女楽ハ男のミを誑すといへとも少年

乃藝ハ男女ともに誑す事甚しく又是を禁し給ひ
て美少男の額髪を剃らせて長年の如くにして藝をとら
さしむ是を野郎と号す野郎といふハ元薩摩の詞也
然れ共今都の野郎ハ額髪を僅に二銭計広く紙
剃て常に紫の額帽子をかうむる故に曽て長年の姿
こはれて女人出家よりまさるゆゑ尚蕩を事とす紙
甚し凡人妻を犯す事なきハ多からさる也野郎傾城の誑
かされて身代破滅の町人京中にハ多き事也遊
女町なと云ハかれよりそよろしからさる事なし凡数万人の都
會の地にハ旅人も多く集る故其中にハ況や遊蕩

淫乱なる者とて有て人の妻とその色人の娘
をうばひ或いは妻よりはなれ西国へ切害其外
様々に哭かなしむ事人の情也あるいは代
よいなくて世人事なる者此悪事に加担云々
うるおい遊女町をこい公儀よりゆるし置なり此
故り繁栄の地よい遊女有事也元来不作法なる
人の為止事と得ると雖て動て遊女町なる者人
是を流世ゝ多くの人いかし心故四民乃内ふ
来る事あること此理と動て遊女を数人と
止事と得ると雖不作法者の同類と為て口惜

故乃遊女白拍子なる数い奇怪人い体道の
ことわり事なるこの小奇乃人の教訓なり事
をうれで今は遊女奇麗姓の数よいあるとやさ化るの
ことなりてこれこうふ奇なる古の小奇つくこうる
この数い其唱雅いまて人は和をも世俗の教訓
うるはしき事多童幼のこゝろ古のいはふよそ
へて代を風しなる物なり有て上ちなれ人と和と付
る数さわりて今は小奇い其ところさ其唱雅
も前なき後るなりて婦乱風道の媒なりのあれい
若き町人をゆめくそれを心うるべし

或人の云ふ童のわざけりなる業ふと云ふ事つく
ゝ事にいと細かる事多し事代は動りて其えの
道理とかるを尋ひて侍るなり春の頃人はだた
いつのかりと揚る事異国にある事也童幼乃
紙鳶は幼児の門に常に陽熱盛なる故春湯の頃
少し真氣つよく吹過ると紙鳶と造りて空へく
是を揚て童児よろこぶ也口紙開らめて門熱を上り
減して病をまぬかれんる也と續博物志に
さり人代日本にいつのかりは廣く大よはしろ紙付
て空へ揚るひ〻くはりとん童子い初童長年は書し

是と歌よ事なりて山野とかりて田地麥苗と踏損ふ童
子は養性といはるゝもの也して久しくとる所は精氣紙上につり
のびをして人は氣は塵を心去のいとおりは烏賊乃形よ
ちいさく造りて麻の糸付てのとるる春の日風吹ゆ
かるれども湯氣よつまて二三丈引て揚て小児童幼乃
糸付ひろまて悦ひしる也唐土ては鳶の形よ造る
ゆへ紙鳶と名付とり烏賊乃形よ造るゆへ日本ては
いつのかりたいつ也又とびのかりたいつ又兎柴の形と
ゆ神主のはとりもぐらとゆ地ては竹のさたよ麥藁と付
て童子は地を打事あるりもぐらとい兎柴は田舎ては

田蔦の事といふ田蔦河内にて土地と穿ち潜りて
紙事あり犬のよう若牛馬犬猫乃新寝所とする
あれいあつち死と草木の不紙穿り所い草木則枯る
この迎此数よ春湯乃地上ゑ蒸とる河紙ゆて伴の
安葉と造て地と打て田蔦と抜ゑを潜伏せ
ふ所い右のさらひ迎此地ゆ紙とる事也
此子細ハ古て唯童子の戯也と迎代い
世来れ人をうら女人をふ戯まて喧嘩と成る多
しあるゆくうや人ゆいぐらと打人ゆとゆる抜し
歳町人若き時分難苦ハ紙して動ハ冨ゆとゆ

文乃通ゆる知よ物ひ乃ぐもの乃てれゆく
けの小銭をしで孫乃ゆひゆる紙乃なる表い又言ふ
しゆゆけまい作ゆ所ゆてで孫いかてゆ乃くい
やゆとの乃ゆとひゆれいあやゆ乃接種してそゆ
いさんめ下ゆいけもの詞こそ似合しけまおの ゆ歳
しゆ知しゆでねゆつてゆるものをゆひしゆゆ
歳人ゆ之通代い町人ゆ乃名ゆいゆくゆくゆ乃名多
しゆいよ死人しゆ結句ゆ多しき名多乃貫之ゆ童
名とゆてゆてゆひしゆゆ又女ゆ名ゆゆてゆて宵
古人ゆ集ゆ乃ゆ乃ゆと濁ゆてよむゆひなり

もろや小児の名すしハかまりけるりつきにかゝへて
つまねまゝハ其子息災成とてつきし名付る重名の
下に丸を付る事も由緒しハ不浄を入る器也故よ
りさしよそへていへるものなりと或書にみえてさうなれは
そまんやとどまず子おもひ也人丸仲丸のさくひいつまし
物され来よりの名なれ其侭にそおくらしはるゝもおゝし
とかくさる結句町人百姓の子よいハ丸を付ていふ事
なし丸といふそれも常いハ不浄ふ近き身にて息災なる
ゆへなや異国よそれしよりハ人ハ結句なるくさ名を付さる
よやれ孔子の御子生れたまひし時或人鯉魚を送りしに

御子の名を鯉と付たまひし類也古の人の名ハ韻鏡なくし
て吉凶を吟味して付る事和漢ともになし又当代
ハ實名なくて吉凶を撰ひて付事いふに及ず福寿の名なく
を受るやうになりし又古の町人百姓よハ儒門無儒の
仮名なりし乱世已後武士の如くなる人農人にいたる
まで招くなりの文なりし也其風俗につられて土民までも
称するなりしかして儒門無儒ハ官名なれハいふまでもなし町
人百姓ハ付さる筈也古の百姓商人の数皆二字名
を付たりとみえてたり此いはれをしらざる也人の今附ハ無儒
儒門を付人なくなれる所もあり既角の母のみなるなれハ

時節ありていつれくしたる事も有ゆく河の泡
しきかたちらいて害なるものなりといつり
或書に云日本は異国より遠いて神系とそなはる故
て高家みな神明の血脈なる故道徳廣才遠き人
人いつれも公家武家の中より出る者也とある或人是
を論していはく此書の説其理いまさ委しく植て
みよ其のそなへ用ゆる品といふ事は誰も知る事
なれども委しく意を付る人のなきゆへ人間は陰陽
五行の神物なり其結ぶ得の深きを都鄙のうつり
かはりを見出し己後漸くに世の流る處よりつ

尊卑都鄙の品部分る此数は都の小児鄙にて成長
する間は則鄙人は風俗も鄙れ小児と都にて成人
やしなひ則都の風俗とかはり町人なりの中にい其先
祖歴くする處れ者其さ度といへ常に町人と替
する人品なれども愛宮殿鳥にあらしば鳥の色目と
なる名なれば町人百姓の子にて幼少より習ひ
んて篤實廣才なる者し者より多く出る事有
徳て高貴なる人は胎内より氣は解物よりはるる所
年の内に成長する間事合の衣服のそなへゆる
うに弓矢墨筆の方ぐひより中き物をばそふ

さてはこれをよくおしひろめ事もなくて成長するゆへ一般の
書文学才藝し御新規仕来り町人百姓の子い胎内より
市井の風俗ようみ知かたり薪をり水汲土堀の業又
い荷ものを細工名品西洋とする故よく筋骨こと
あるく変化ばかりまたり経書文学乃暇ものく偶暇
有ても筆骨こそ筆とくなる事堅経書の
時あるく人い幼少後清子とさえつくあけてとせ
とこいうるもく下賤土民のまたの先出ぜより無位
富貴の家にて成長をしるい経書文学の善れ
有人も多く出来ぬ俗にて剛臆ない貴賤より

よりあるひ成ひるくもあくも足ゆる事
多くの貴人ハ血脈いみなものくを君子なる理なり
い胎教のみら幼儀のるひなくも元関めるもその
俗意ても徳行博才ハ人となる理なりと人とも生
立あるくれい不徳元後乃人と成とこうい
凡早ハ血脈といハ胎教の道と守て腹内より
所ものこうて鮮ものて出ぜて君子ハ傍小生て
幼儀をおしひ才藝ものてあるいしる事あるく
天性命分ハ品ハ信く義悪鈍智の移りい方先
其人品高位高官乃人ハ移りなるハ異意

人間の根本なるべき理を唯生ぜるとのみ
と知て傾城の多くの下賤なる者のつるれも
幼少なる風流よりさとるべき諸人と誰なるべ
き風儀なるべし況や人間本分の上に於て何ぞ
貴賤乃至別なんいつる所賤なるべきやを岳てと
公の方人の上より延んものなり武家の民篇を問て
家は威と選くまつるべいんる家なり所人の民篇
をんなつるいふと貴賤の相なりとやや
或人の云茶湯の源は鎌倉北条の末より興ると高時乃は
武家より始まりの多くて千剣破の城寄手は百服

茶湯を致して遊びなるべしと雖も是は
足利将軍義政公に於て盛ふ世の風流と好む人なり
是成故に事にて多くの茶人は出て世に広て廣の
大閤秀吉公は常時ふ如なりて土庶人は此道をそなて
是にて多人を以て世は弱人なる其根本は禅家の遊
者の神を以て質素閑静と学ぶる故に然た風流
義は必ずしもなるべきなる故質素より似て實の質素に
あらず閑静より出て閑静の実静にあらず此故より乱世に近
き北条の末におこり高時より長く義政公に盛ふして
秀吉公は驕世に遍く長く何も久しかるべきに乱世

代々れい不吉の兆しとなりや黄代は勿論てい千年以
来の治世なれい先茶湯の道廣く弘まへき事なれも
結句さまたけて茶湯昔れめくれい当世ハ弘まる迄是其
道の損徳利害ハ人皆ひきまつる故なり鬼角奇麗風
流乃ハ茶用ゐ初なれい貴人ゑ信の樂ハて町人百姓
乃弘へき道よいわゆる先流茶湯ゑ凡そ竹の間
瓢軍れ[illegible]てこゞと呑て心真ハ閑静清浄なる
是と法ゑの業人といいつゝ人くわれた真心閑静
清浄れ人ゑ[illegible]ハ粉ゞ[illegible]茶用ひて茶人
といわれと先本末自然の流通者なれい何ゝ[illegible]

何ゝ[illegible]ハ町人百姓なれ是ハの人ハまひと
きんゝ又何ゝ[illegible]茶ハ好む人ゑ[illegible]ハ茶ハの
酒と嗜む人ハ只酒を飲菓子好む人ハ菓子喰
て共ゑみる飯食なり我ゝ[illegible]酒とのゝ菓子ゑ
人いまゝ茶のゝ[illegible]道具器物の風流とする
事とまろす業而ゝ[illegible]ハ[illegible]風俗と好ひる心
得ゝ[illegible]

或人のいわれハ町人ハ蟻のゆくて合物ハ貯へ命を惜
ゝ[illegible]ハ蝶れゝ網とゝろ居ゝ物
乃命とゝろて合ゝ[illegible]ひのる[illegible]

り王字一とつて人い蜘蛛の居るを物の合とそれ
て合とする事紙悪くて常に竹杖をもつて蜘蛛の
網をはらひ捨てる云かさいつくるほ〳〵うん蟻
い二つく義ある虫なり此虫よ虫の偏よ義乃字紙
添り紙日付来して合物を求め完中に貯へ置て
冬の用意と却のまろ求得るを合ありておのを
ひとり共合を以完り行る程く其ほ所人の四方
へ働きつとめて財を求め家門と富ます蟻乃ぬ
く意以油断なくして家紙をもつへ蜘蛛い智
謀ありて物乃合と誅罰と此虫り虫の偏よ知

乃字紙添又誅の字紙略して朱の字紙付るの所
人い悪紙悪しく謀計をもつて公儀を賺して
諸人乃後世紙却のを一人まて戸清貪欲非義乃
網を張つ居るを萬人をくるしめて地獄乃
身と富ます富んと不仁の甚きをの也
王字一の悪める事又最るをや所人ほ者
第一初へき虫なんと諸紙

町人囊卷四終